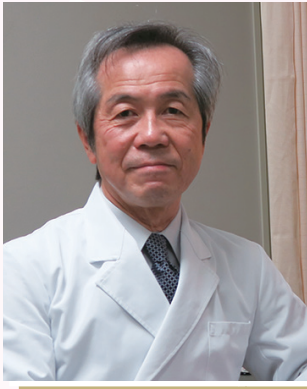


柏市立柏病院広報誌

かし和

40

2024.1



新病院設計中

病院長 野坂 俊壽

新型コロナが流行して4年近くたち、ようやく人が集まって楽しめるお正月になりました。当院でも概ね新型コロナ以前の診療体制に戻っています。

2022年当院の現地建て替え方針が決まりました。2029年完成を目指し、病院・柏市・業者で協議を行い、新病院の設計にとりかかっています。新しい病院でも、“最新の標準治療を確実にに行える病院を目指す”という方針は変わりません。日々の診療の堅固な基礎があつてこそ、災害や感染などの非常時対応も可能になると考えています。

現病院は国立柏病院時代に建てられた建物で、1993年柏市に移管後は増築・改築しながら使用してきました。そのため、外来ロビーが狭い、診察室にプライバシーが無い、病室からナースステーションまで遠いなど、患者の皆様にご不便をおかけしています。さらに、雨漏りがする、すきま風が入る、空調が壊れる、配管から水漏れする、電気容量に限界があり新しい機器を導入できない、など職員にとっても不都合が重なっています。新病院の設計ではそうした現状のマイナス面をなくし、プラス面を増やしていく方針です。

今後は高齢者の方がさらに増えます。杖歩行や車椅子でも、分かりやすく迷わず、移動しやすい建物が望めます。高齢者は病気が治っても、なかなか元通りの生活に戻れません。リハビリが大切ですし、診療所や介護施設につなぐ連携室の充実が必要です。

小児医療も地域にとって重要な課題です。夜間・休日でも小児の救急に対応でき、必要時は入院できる施設を目指します。

今回の新型コロナの大流行では、何度も一般診療が大幅に制限されました。再び感染症が流行したとしても、一般診療への影響を最小限に抑えられる外来・病棟の造りを考えます。

災害時は、停電になっても3日間は非常用発電で診療を続けられるようにします。水・食糧・医療ガスなどの確保も重要です。非常時に長期間耐えられるよう、通常時もエネルギー消費が少ない建物を目指します。

医療は日々進歩しています。遺伝子検査による患者さんごとの治療が可能になってきました。ロボット手術も一般化しています。このような医療変化にも柔軟に対応できる設計が望めます。

現地建て替えですので、診療しながらの工事になります。入院中の方や近隣の方に御迷惑にならないよう、工事の騒音・振動を抑える配慮もしてまいります。

新病院完成は最終目標ではありません。その後の当院の発展を目標にして、新しい病院を作っていきたいと思っております。



病気のお話シリーズ

バセドウ病

<内分泌・代謝内科>

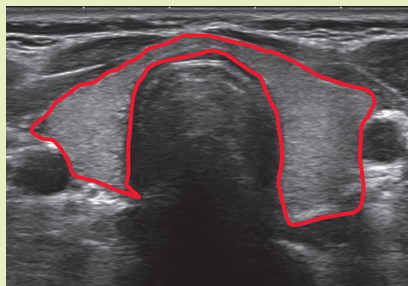
今回、お話を伺ったのは増田先生です。



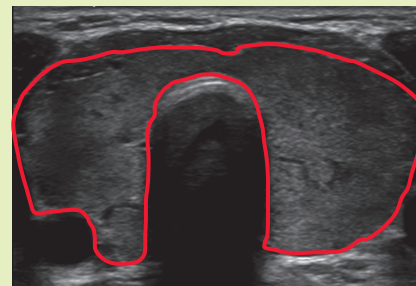
バセドウ病とは？

甲状腺という喉仏の下にある臓器の働きが病的に活発になることで、血液中の甲状腺ホルモンが過剰になる病気です。甲状腺ホルモンが過剰になると全身の新陳代謝が盛んになり、また自律神経の1つである交感神経の働きが異常に活性化されます。その結果、発汗が増える、暑がり、手の震え、動悸、体重が減るなどの症状が現れます。

甲状腺超音波検査



正常甲状腺(断面図)



バセドウ病患者の甲状腺(断面図)
正常と比べて甲状腺全体が腫れています。

原因

バセドウ病は自己免疫疾患のひとつです。自己免疫疾患とは、細菌やウイルスなどから体を守るための免疫が、自分の臓器・細胞を標的にしてしまうことで起きる病気の総称です。自己免疫により、甲状腺細胞の表面にある受容体という部位に対する抗体が作られ、この抗体が甲状腺を刺激し続けるために甲状腺ホルモンが過剰になります。甲状腺の受容体に対する抗体が作られる原因は分かっていませんが、バセドウ病になりやすい体質を持っている人が、何らかのウイルス感染や強いストレス・妊娠・出産などをきっかけとして起こるのではないかと考えられています。

診断

バセドウ病が疑われた場合、血液検査で甲状腺ホルモンや甲状腺に対する抗体の数値を測定します。甲状腺の大きさや血流を確認するため超音波検査も行います。

治療

抗甲状腺薬

甲状腺ホルモンの合成を抑え、血液中の甲状腺ホルモンの値を正常にする治療です。最も簡便で外来で治療を始められるため、多くの場合に第1選択となります。

アイソトープ治療

放射線を出す性質を持たせたヨード(放射性ヨード)のカプセルを飲む治療です。内服した放射性ヨードは甲状腺に取り込まれ、そこで放射線を出して甲状腺を壊す事により甲状腺の働きを正常にします。抗甲状腺薬での治療が上手くいかない場合や、副作用により抗甲状腺薬が使用できない際にアイソトープ治療を行うことがあります。

手術

甲状腺を切除することにより、甲状腺ホルモンを作る場所を少なくする治療です。この治療も抗甲状腺薬での治療が上手くいかない場合や、副作用により抗甲状腺薬が使用できない際に行うことがあります。

心当たりのある方は、外来でお気軽にご相談ください

第22回 糖尿病を知り隊!

糖尿病検査とHbA1c



糖尿病の話の中でよく耳にする HbA1c とは何なのでしょう。HbA1c (ヘモグロビン・エーワンシー) とは赤血球の中にあるヘモグロビンにグルコース (血糖) がくっついたものです。血糖値が慢性的に高い人はこのヘモグロビンにグルコースが結合する割合が多くなるため、HbA1c の値も高くなります。

血糖値は運動や食事などの影響を受けやすく、1 日の中で変動が大きくなります。そのため、採血のタイミングによっては糖尿病の値を見

逃してしまう可能性があります。

しかし HbA1c は過去 1 ~ 2 ヶ月の血糖コントロールを反映するため直近の運動や食事習慣の影響を受けることなく検査することができ、糖尿病コントロールの指標となります。

HbA1c の基準値は 4.6 ~ 6.2% であり、HbA1c が 6.5% 以上で糖尿病型と判定されます。

HbA1c が高いと、糖尿病に合併して糖尿病性網膜症、糖尿病性腎症、糖尿病性神経症を引き起こすだけでなく、動脈硬化が進行し、脳卒中や心筋梗塞、狭心症などの障害を引き起こす原因になります。

合併症予防のための HbA1c 目標値は一般的には 7.0% 未満とされています。年齢や病態などによって個人差もあるため、ご自身の目標値を担当医師に確認してみてください。



No.28 かしわ食卓日記

ブロッコリーのポタージュ



● 材料(1人分) ●

- ブロッコリー…50g(1/6株)
- じゃが芋…50g(1/3個)
- 有塩バター…4g
- 塩…0.3g
- 顆粒コンソメ…1g(小さじ1/3)
- 水…100ml
- 牛乳…100ml
- 胡椒…少々

● 1人分の成分値 ●

- エネルギー…141kcal
- たんぱく質…5.7g
- 脂質…6.6g
- 塩分…1.1g
- 食物繊維…2.9g

冬に旬を迎えるブロッコリーを使った料理をご紹介します。ブロッコリーは栽培時期をずらすことによって、一年を通して安定して流通していますが、旬の時期は11月から3月です。また、栄養が豊富な野菜と言われていて、たんぱく質、食物繊維、ミネラル、ビタミンがバランス良く含まれています。今回はそのようなブロッコリーを茎ごと食べられて、簡単に作れるポタージュをご紹介します。

作り方

- ① ブロッコリーを洗って、茎の固い部分をむく。粗いみじん切りにカットする。
- ② じゃが芋は洗って皮をむき、芽を取り除く。薄いスライス状にカットする。
- ③ バターを鍋で火にかけ、溶けたところにブロッコリーと塩を入れて5分程ソテーする。
- ④ じゃが芋、顆粒コンソメ、水を加え、蓋をして15分程、煮込む。
- ⑤ ヘラでブロッコリーとじゃが芋をつぶす。牛乳を加えて軽くとろみがついたら出来上がり。皿に盛り付け、お好みで胡椒をふりかける。

ポイント

- 粉チーズやクルトンをトッピングすると更においしく召し上がれます。



病院併設の「介護老人保健施設はみんぐ」からのお知らせ

介護教室

参加費
無料

◆自宅でできる床ずれ予防 ◆福祉用具の使用法



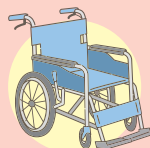
日 時 2024年3月16日(土) 10時～11時30分

会 場 柏市立介護老人保健施設はみんぐ

申込方法 1月4日(木)申込開始 電話による事前申込制です(先着8名)

申 込 先 電話 04-7134-0660 (受付時間：平日9～17時)

当日、施設内ではマスク着用をお願いします。



当院の骨そしょう症リエゾンサービス

当院では、2019年4月より骨そしょう症リエゾンサービスを立ち上げました。整形外科医を始め、健診センター、薬剤師、看護師、理学療法士、放射線技師、管理栄養士、社会福祉士、医療事務等で構成されており、多くの医療スタッフで連携し患者さんのサポートを行っております。リエゾンとは、フランス語で「連携・橋渡し」などと訳され、骨そしょう症患者さんの骨折を防ぐために、様々な医療スタッフがチームとなり、連携・サポートを行うサービスのことをいいます。



世界骨そしょう症デーとは

「世界中から骨そしょう症をなくす」ことを目標に、毎年10月20日は世界骨そしょう症デーに制定され、啓蒙活動の一環としてブルーライトアップが様々な場で行われております。当院での骨そしょう症デーの活動として、昨年10月16日から20日まで正面玄関のライトアップを実施し、20日には骨密度測定やパンフレット等の配布などを行い、多くの方に来院して頂きました。



正面玄関ブルーライトアップ



骨密度測定

あけましておめでとうございます。

今号で「かし和」が40回目の発刊となります。今まで発刊に関わって頂いた方々や読者の皆様に改めて感謝申し上げます。ふと1号っていつ発刊したのだろうと振り返ってみました。平成23年1月と書いてあります。「広報誌の名前はどのような？」「紙面割はどうする？」等々、試行錯誤したことを懐かしく感じます。その時代から関わっている者として継続性の大切さを身に染みて感じている今日この頃です。皆さまにとって、本年がよい年でありますように…

事務部 福若



編集
後記

健康と地域医療の発展に寄与する千葉県救急告示病院



公益財団法人柏市医療公社

柏市立柏病院
Kashiwa Municipal Hospital

〒277-0825 千葉県柏市布施1-3 TEL：04-7134-2000

URL：http://www.kashiwacity-hp.or.jp/

柏市立柏病院広報誌「かし和」 第40号 年3回発行
2024年1月発行 発行元：柏市立柏病院 広報委員会

